

Kinari

お届けカレンダー		2008年 8月2回				
		月	火	水	木	金
注文用紙提出		8/4	5	6	7	8
	商品のお届け	11	12	13	14	15

別チラシ「くらしと生協」など一部お届け日が異なる商品もあります。
8月1日～8月29日お届け分は9月8日の引き落としになります。

シリーズ 平和を考える 第二回

食が保障されなければ、 平和な国とは いえな

資源のない日本が生き残るために必要なこと。
辰巳芳子さん

私たちの暮らしを取り巻く、空気がざわついている。環境変化によるものなのか、各地で続く災害、相次ぐ食品の値上げ、連日のように繰り返される痛ましい殺傷事件……。すべてに共通するのは「いのちを脅かされる」という不安感だ。食を通して「いのち」を見つめ続けてきた辰巳芳子さんが語る、この不穏な時代における「人としてあるべき食との向き合い方」とは？

自給率39%では国は守れない。

1965年に73%あった日本の食料自給率（カロリーベース）は、いまや39%。「自給率39%っておそろしい数字ですよ」と辰巳さんは表情を曇らせる。

ヨーロッパ諸国と比べても、元来、作物を育てやすい条件が整っているはずなのに、自給率では大きく水をあけられている。

「歴史を調べてみると、ドイツ麦なんて2粒を5粒にするのに300年もかかっているのよ。それでも地続きのヨーロッパでは、自国を守るために食をととても大切にしてきたの。『食はEUのアイデンティティーです』なんて言葉を聞くと、うらやましくてしかたないわね」

食料難の時代も知っている、土にも水にも恵まれている日本。それが39%では情けない。政府の無策ぶりにも日本人の危機意識の欠如にも腹が立つ。

「なくなる時はある日突然なくなるのよ。徐々に少しずつ……なんてことはありえない。昨今のパンや油の値上げを見ていると、わかるでしょ？ 外国から、もうお前さんのところにはやれない事情になったから、って言われたらそれで

おしまいなのよ」

「農役」ぐらいしなくちゃ、間に合わないわよ」

「平和」とは、つき詰めていえば「食の保障を永久的に得ること」と辰巳さん。そのためには、「自分で動いて」「自分の目で見て」「自分で作る」ことが大事だと説く。

「昔は兵役なんていうのがあったけれど、いまの時代は『農役』というのがあってもいいと私は思う。企業も、収益を上げたなら農業に人を出すくらいでなきゃ。大学にも農家にお手伝いに行くという授業があってもいい。とにかく、のほほんとしていたら間に合わない。一刻も早く、農業を再生させないと」

食の保障のためもうひとつ、何としても「核」を撤廃させたい。

「本来、生命というのは核を受け入れることはできないもの。六ヶ所再処理工場なんて本稼働したら、海は死んでしまいます。核で海や土を汚されてしまったら、他に資源のないこの国では、もはや生きていくすべはないのよ。自分のいのちを守ってくれる本物の食べ物が無い限り、人はいつでもおびえてくらしさなきゃならない。それではもはや平和とはいえないでしょう？」



たつみ・よしこ
1924年生まれ。料理研究家。家庭料理、家事差配の名手でもある母・辰巳浜子の傍らで料理とその姿勢を我が物に、独自にフランス、イタリア、スペイン料理も学び、広い視野と深い洞察に基づいて日本の食に提言し続けている。安全で良質の食材を次の世代に伝えるため、「大豆100粒運動」「良い食材を伝える会」などの会長を務める。

パルシステム 今週の一品

「野菜が足りない」
と思ったら、
ぜひ毎日の習慣に。



29ページ
101 もっと野菜! 赤165 (AB)

この商品
待って
いました
組合員のみなさん
のお気に入り
をご紹介します。



同時に
お届け
しています。



「夏休みは手軽な魚ごはん」 「ドリンクフェア」

